



明治七年官許九月刻成

河邨祐吉著

農家  
日用  
雜來

琵琶湖書樓發兌



遠藤平寫



一犁春雨足  
為以雲為

事本熟枯且  
策本勉強

洪武雜題



序

韓中

移風化俗。莫善於教。則智達材。  
莫善於書。大政一新。百事並興。而  
洗舊染。除惡象。非由界邊之教。  
平易之書。則不能也。方今小學

之設。殆徧海內。而文學業生徒。農店  
其七八。庸民之才。宜先教之以算  
近亦多者。使其知語物。則是一  
物之益。知一字。則有一字之用。則  
子弟樂而就學。雖唯父兄。亦必

能然悅之。是南畦河村氏之  
所以有也。書中所載事物器  
械。皆民百必用。不知者則謂之  
閑遠之初步。而可矣。謂之移化  
之始基。而可矣。

明治七年六月上游

青柳廣瀨範治



河村  
祐吉  
著述

農家日用往来

人間生理乃大本ハ衣

食住のニツニ出次。

上一人ニ至。下億兆ノ以事ヲ

まごし。一日も<sup>かく</sup>闕<sup>る</sup>るの<sup>ら</sup>せらる

物<sup>も</sup>し<sup>く</sup>。往<sup>まの</sup>昔<sup>むし</sup>。

天照大神。豊受姫乃

生育<sup>せいよく</sup>せ<sup>し</sup>。粟<sup>あは</sup>稗<sup>は</sup>麥<sup>ま</sup>黍<sup>ぼ</sup>菽<sup>そ</sup>

を<sup>を</sup>陸田<sup>りくでん</sup>乃<sup>の</sup>種子<sup>しゆじ</sup>とも<sup>も</sup>。稻<sup>いぬ</sup>を

水田<sup>すいでん</sup>の<sup>の</sup>種子<sup>しゆじ</sup>も<sup>も</sup>。那<sup>な</sup>耕種<sup>かうしゆ</sup>

培養<sup>びよう</sup>能<sup>よ</sup>其<sup>その</sup>至<sup>いた</sup>業<sup>ぎふ</sup>。人民<sup>じんみん</sup>蕃<sup>はん</sup>

息<sup>いき</sup>乃<sup>の</sup>道<sup>みち</sup>を<sup>を</sup>隆興<sup>りゆうきう</sup>。多<sup>た</sup>事<sup>じ</sup>も

一、し程農のう、のう専めら<sub>る</sub>利り用よう厚こう  
せい生せいのせい權けん輿いふいくく。其その業わざを  
けん勤けんくく。則すなはちち報ほう本ほん及およ始しの  
 第一也。故ゆゑ。四よ時じ乃すなはちち氣き候こう

ふう風ふう雨う寒かん暖だん。天てん乃すなはちち時じ不ふ志しくく。  
こ厚このこ薄はく肥ひ瘠せき地ちのち理り不ふ依いり。  
かう高かう燥そう卑ひ濕しつ植ちく物ぶつ能のう便べん利り  
つちをつち畜ちくふふ。春はる耕かう。夏なつ耘うん

秋獲冬蔵。次第順序を

愆を。早稲刈。戴き出で。月収

帯多。歸と。農人。尋常

の務あり。黍稷麻苧藍

青紅花。大豆小豆。大角豆

蕎麥。豌豆。蠶豆。胡麻菜

種。在田。粟。隠元。紫。紅。蘿

葡萄。牛房。燕。菁。胡。蘿。葡萄。里



芋いも紫芋むらさきいも馬鈴薯ばしんしょ薯蕷しゆい芋いも黃蘗わうびやく

薯蕷しゆい番薯ばんしょ薯蕷しゆい南瓜なんか越瓜こゑか茄子なす

冬瓜とうか西瓜すいか丝瓜すいか真桑瓜まそうか

匏瓜ほうか壺盧瓜うろくか綠豆りよく辛菜しんさい

苘蒿しんこう菠薐草はせいそう紫蘇しそ蓼れう

藜荷れいか苜蓿もくご山薑さんきやう薑きやう辣薑らつきやう

葱そう針葱しんそう韭すい薤けい薤けい薯蕷しゆい薯蕷しゆい薯蕷しゆい

又山野の間り生またやまのまにうゑ天然てんぜん

食料あじふ充あつべらたもらぬら松しょう茸じゆん

初はつ茸じゆん針しん茸じゆん蕈たけのこ藓こけ菌きのこ木き耳みみ

香かう菌きのこ椎し茸じゆん松しょう露ろう其その外ほか

種たね々々乃の木き菌きのこ類るい蕨わづら薺なづな蒿こう蒲ふ

公こう英えい土ど筆ふで獨ひとり活か芥か蕨わづら薇ゐ

野の蜀しやく葵あひ百ひゃく合ごう根こん蓴すい菜さい薯じゆ

蕨わづら慈じ姑こ蓮れん根こん烏う芋いも山さん椒しやう

木き芽めふふ々々々々々々六ろく歲さい以い上じやう

十二三四。女童をまねてあそぶも小學をまねて乃受し。  
 業わざの暇ひま徒ただ不た遊あそ戯び代かり不た。  
 摘つみ取とりて。街まち衢ぢに販はん賣ばいする。  
 時ときに自己おのれに利益りやくを求めず。次つぎ。

這こ箇れ珍ちん物ぶつともなくや。  
 朝あさ糞げ食じ餐せん飯げん午ひる食じや。酒さけ乃なり。  
 下くだ物もの不た法ほう術じゆつと偶たがひ容ゆるの饗あは食じ。  
 應おこず。無む用ようを以もつて有あ用ようとす。

是鴻益此一助也。儲又陰

陽曆日之外。鳥の轉虫乃

聲。時節を報寸も此あは。

平生心ふ懸つても。種活苗

代播種挿袂嫩苗の頃

は。田草を取。水を引。

莠を除き。螟を焼。毛生の

良否。早稈晚稻。秣杭

大冬米順時の子入肝要

あつと。壤墳埴に三種を真

去とい。是紙上と。糞泥

壚去廣斥の三種を糞去

少の。是を下と寸以上の六種。

地味去性之品位を踏勘し。

灌浸乃大概。人糞尿石

灰既肥。馬糞刈草藻塩

艸くさ。鯨くじら干か。鯉こい油あぶら。粉こな。近年ここねん。鮑あわび。  
 来き之の。鷄とり糞ふん。最もも滋養じやうの功こう。  
 あま。耕こう作さくの器き械けい。少すく。少すく。  
 國くに々々。能よく。土つち。風かぜ。少すく。後あと。少すく。其その。形かたち。少すく。

異ちが。あま。と。錐こし。鋏きりばし。鋤うま。鐘かね。  
 犁かき。鉏かき。蟹かに。爪つめ。鶴つる。背けい。角かく。連つら。枷か。犁ね。  
 底ち。千せん。把ば。龍りゆう。磨ま。碓うす。碓うす。番ばん。籾もみ。籾もみ。  
 簾すだれ。箕み。後あと。塚づか。馬うま。耙くわ。牛うし。の。鼻はな。

農家日用行状

十

拳つげの長短ちぢりとろしきたんふ

後あごの馬乃絆繩ちづなハ三尺さんしやくを以

制限せいげんとす。腹帶はらび鞆たもと鞆たもと銜くみ

漕くわい犁り繫か鞆せ馬槽うまぐち京拵きやうしゆ武ぶ

佐拵さしゆ手拵てしゆ白しろ概がい苞ほう狹せま俵たわら

蒲か筭ま負お葉は藁わら藉せき屏へい桶ぶく桔き擗ひ

等ら尔に至いたるま迄まで豫よ測そく閼か換かんを

補お理り。芟か茅や索かり綯な油あぶら断たん

ふく。家屋之。營繕ハ。負

富乃分限。不應。一。瓦葺

茅稍柿。藁葺等。母屋

隱居。納家厨。浴室。雪隠

牛欄。厩。籾倉。文庫。土蔵

部屋。門。迫戸。塙。圍廬。舎

屏垣。廂。軒。楹。襖。障子

承雷。雨戸。竇。窓。牀。篋。戸



棚家財家具之類ハ、  
 膳椀、坪平、燒物皿、飯器、  
 湯桶、吸物椀、椀子、箸、折  
 敷、硯蓋、土瓶、間鍋、鉚釐

猪口、鉚子、盃、手鹽皿、椀子、  
 弁當、散蓮花、藥罐、急須、  
 烟卓、盆、烟管、唾壺、烟囊、  
 掛軸、花瓶、卓子、鍋釜、竈、曲

突銅罐。火箭。煨。舂。吹筒。

播盆。播。追。杓。子。筑。籬。水。

甕。穀。匣。米。浙。桶。柵。几。菜。

刀。出。遠。庖。丁。炮。碌。錢。槁。

澆。團。扇。麪。盤。麪。棒。薑。擦。

盥。匝。手。桶。擔。桶。蒸。籠。

度。格。梭。篋。斗。單。席。

筵。薦。蘆。蔴。苳。行。唐。莞。

席ざ拵しづ草履そうり短鞋たんせう草蓆そうじ鞣しと

沓くわ蓆その笠かさ管すゐ笠かき箒たけのこ笠かさ合あひ

羽傘えか下踏かろ履かき行燈あき提燈あき

雪洞ゆき手燭て油あぶら蠟燭ろうそく鑽燭ひら燧くわ

匣こ燈とう心しん引ひ火け奴ご火か口くち柴しば炭すす

換か新あたら木き葉は根ね楯たもと衣服いふく

調度てうど之の類るい簞たん笥す長持ながもち抽ひ

匣こ葛くわ籠かご祭服まつり服く禮服らいふく袴はかま

外套。絮服。袷。帶。繻。絆。  
 帷子。單衣。縞。紋。付。半纏。  
 股引。脚絆。足帛。胴着。  
 犢鼻。禪襟。袖口。蒲團。

寢衣。蚊。蠅。紙。帳。尋常。  
 鎖鑰。を。嚴。し。慢。威。盜。  
 貶。誨。に。聖。人の。戒。あり。  
 将。又。机。算。盤。硯。匣。墨。

筆帳簿判印形沽券  
 田文證券印紙界帛  
 地券地租賦金定免破  
 免檢見作徳後前石高

之年貢を廢一及歩の  
 廣狭に拘らぬ地價を  
 高低ふ依く。百分三乃  
 租を納へま也。婦女能

用具ぐぐを鏡架きやうか糸針いとはり鎌かま

車くるま機はたき梭すゐ苧おとすゐ環とほけ績とほけ桶とほけ紡とほけ

車くるま筭かんざり掃かき枝えだ櫛かみ額かぶと元もと結むす

鬘かみ香油かき類たぐひ新造あらた年とし間ま

髪かみの結方むすかた土地ちち風俗かぜ

古今ここん異ちがありしは

島田しまだ圓まる髻まげ端はなは并なら之花はな

三ツ輪みつりん割わり唐から兒こ兵庫ひんぐ

茶筴先男子髻。银杏返  
 洗髮若少嬰兒  
 分娩之際。又當。初衣  
 襪。襪。襪。涎。焙。籠。獸。子。系

至。迄。前後。心。配。里。  
 保護。養。育。之。事。より。織  
 縫。組。編。等。之。女。紅。之。玉。子  
 娘。嫁。女。房。の。職。掌。なり

紅粉を傳翠蛾を  
 畫き。冶容淫を誨ふ遊  
 女藝妓之風習。賤むべし  
 慎むべし。居屋鋪圍之内。

前栽之趣を以主人乃意  
 向も知ぬべし。一切無益  
 の樹木を種ず。栗柿梨  
 枇杷桃李。橙香柑馬胆



杏あん蜜みつ柑かん金きん柑かん梅うめ棗ざう林りん檣じょう  
 揚やう梅うめ菜さい苳じゆ葡萄ぶどう銀ぎん杏あん  
 胡こ桃たう等たう之の成なり熟じゆく菜さい尺せき寸すん  
 乃な空くう地ち之の培むい養やう亦また尽じん力りき

是これ亦また時とき々々之の利り潤じゆん也なり  
 却さか説て山さん河か之の形かたち勢せい之の後あと也なり  
 水みづ利り之の順じゆん送そうを考かんがへ溝こう  
 洫くを通つうじ池いけを設まけ井い或ある

鑿ら旱損乃禍備へ。  
 隄防を築き石籠堰埭  
 之用意洪水の患を除き。  
 道路を修理し橋梁を

架し往來を便利せしむ。  
 等之事ハ農夫之義  
 務多し。荒蕪乃開  
 墾是を地方官具

状ぶち。一。鋤くわ下何々年免めん稅ぜい  
之の允ゆる許もとを請う多く桑くわ茶ちや  
亞あ麻ま續つづ隨ずい子こ桐とう漆しつ等らを  
種くさね製せい茶ちや養やう蠶さん楮かたぎを伐きり

紙しを漉す之を。櫃こを接つぎ蠟ろうを  
絞しぼり。織おり物もの陶たう器き漆しつ細さい工こう  
亦また至いたて。宇う内うち之を稱なづけ。  
五ご洲しゅう具ぐ亦また瞻かんる。農のう之を賦ふ

生一。工是を製す。最も

精良を盡一。皇國物

産之聲價を貶む様。

確と注意一。庶品蕃殖

乃道を窮むべ一。日本全

國五畿八道ふ分ち為國

八十五政府に於て立

法司法行政乃之令ら

一官總括いちくわんそうかく一省いちしやう一使いちし  
 三府さんふ一藩いっぽん六十縣ろくじゅうけん六管ろくくわん  
 鎮ちん臺たい五開港ごかいかう七大學しちたがく區く  
 郡區ぐんく村落りやくらく區く區長ちやう

副區長ふくくわんちやう村むら正副戶長せいふくこ  
 地主ぢしゆに戶主こしゆ社しゃ祠ひら之神官のしんくわん  
 寺院じゆいん乃なり僧徒そうた貫屬くわんじゆく屬じゆく華か  
 族ぞく士し族ぞく卒そつ儒醫じゆい農工のうこう商しやう

亦<sup>も</sup>至<sup>も</sup>中<sup>ちゆう</sup>之<sup>の</sup>。人<sup>じん</sup>民<sup>みん</sup>一<sup>いつ</sup>般<sup>ぱん</sup>の制<sup>せい</sup>  
 にし<sup>て</sup>。門<sup>もん</sup>閥<sup>ぼつ</sup>流<sup>りゆう</sup>民<sup>みん</sup>乃<sup>な</sup>差<sup>さ</sup>  
 別<sup>べつ</sup>ふく。衆<sup>しゆう</sup>庶<sup>しよ</sup>を統<sup>とう</sup>理<sup>り</sup>す。府<sup>ふ</sup>  
 縣<sup>けん</sup>乃<sup>な</sup>分<sup>ぶん</sup>課<sup>か</sup>す。庶<sup>しよ</sup>務<sup>む</sup>聽<sup>ちやう</sup>訟<sup>そう</sup>

租<sup>そ</sup>稅<sup>ぜい</sup>出<sup>しゅつ</sup>納<sup>なつ</sup>の四<sup>し</sup>ツ<sup>つ</sup>ニ定<sup>さだ</sup>め。大<sup>だい</sup>  
 中<sup>ちゆう</sup>少<sup>しやう</sup>乃<sup>な</sup>属<sup>ぞく</sup>し。史<sup>し</sup>生<sup>しやう</sup>縣<sup>けん</sup>  
 掌<sup>しやう</sup>判<sup>はん</sup>任<sup>にん</sup>官<sup>くわん</sup>出<sup>しゅつ</sup>仕<sup>し</sup>等<sup>とう</sup>外<sup>がい</sup>仕<sup>し</sup>  
 丁<sup>てい</sup>小<sup>しやう</sup>至<sup>も</sup>中<sup>ちゆう</sup>之<sup>の</sup>。知<sup>ち</sup>事<sup>じ</sup>令<sup>れい</sup>參<sup>さん</sup>事<sup>じ</sup>

奏任以上の指揮を請け。  
 一六休暇を除くの外毎日  
 午前九時乃出勤。午後  
 四時退出。管下人民の

権利を保護す。凡願伺届  
 等一々其廳へ指令を奉  
 じ。御布告達書告諭  
 等専ら其意を遵守し。

遠式註遠有る。寸鍊  
道を修築し。蒸氣の車  
を馳せ。海路湖上。汽船  
機械を巧み。馬車人

力電信機郵便陸運銀  
行等ハ。西洋各國多年  
工風を凝し。漸く成功を  
得し。一朝吾



皇國便利の軌模あり  
全く交際上を自然  
志むる所あり。是れ富  
國乃其基也。假色僻陋頑

固愚民の輩。稍きむハ開  
化文明を誹謗し。因循  
姑息乃舊弊尔。拘泥し。  
斬髪之輕便を忌嫌ひ。

半髪はんぱつの異風いふうは慣習かんじゆ一。  
廟堂びやうだうに御僉議ごせんぎを抵たい  
牾ごし。御布令ごふれいを御趣意ごしゆい  
を誤解ごかいする等無な。全まるごとく

無學文盲むがくぶんぼうのいふ事こと所ところあり。  
抑徵兵おしめいへい乃令なり事こともや。  
本邦古昔ほんぱうこせきの制せいも甚しんま。  
海外各國かいがいこく乃式なりしきを斟酌しんしやく。

國家事ある時、全國  
皆兵とあり。内憂外患  
を防潔し。天下事あり  
時、人々其職業あり

從事せしむ。是強兵の  
遠敵萬民に生るるを扶  
助し。自主自由を得  
努しむ。是我日本

立君政治に義務あり  
之。力。税。を。以。て。天。恩。  
を。報。ひ。奉。る。萬。民。乃。  
義務と謂ふ也。 畢

滋賀縣下學校用  
書籍販賣所

琵琶湖新聞會社

